

令和5年度 延岡市立水小学校 学校評価書

【教育目標】「自立貢献」＝「奉動」 心身ともにたくましく、創造豊かに考え、生き生きと学び続ける児童の育成 (4段階評価 4よくあてはまる 3おむねあてはまる 2あまりあてはまらない 1全くあてはまらない)

↓評価(◎平均3.5以上 ○3.4~2.5 △2.5以下)

区分	項目	内容	評価項目	児童	保護者	教職員	平均	学校の自己評価(達成と課題)	年度の手立て	総合	学校運営協議会委員・評価コメント
教育目標	基本方針	・自立した児童 ・貢献できる児童	学年段階に合った、自立した児童が育っている。	3.4	3.2	2.8	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人それぞれの児童に応じて、それぞれできることが増え、学ぶ意欲を高めながら、学習に集中して取り組もうとする児童が多い。 学習意欲の高まりと同様に、聞いて話すこと、読んだり書いたりして話すことへの抵抗が小さくなってきた児童も見られている。 相手の話や聞いたことに対して、相手の気持ちをくみ取りながら理解しようとする姿が見られ、楽しく対話し問題解決を図ろうとする姿が見られる。 病気やケガでの欠席が非常に少なく、元気に登校する児童の姿が多く見られる。 日常のコミュニケーションの中で、周りの状況に応じた自分の考えを伝えようとする児童が増えてきている。 自分の考えを相手に十分に伝えることが難しい児童が多い。 些細な気付きを共有し、改善上の手立てをうつ。 体験活動が多く実施されるが、感想だけで終わるのではなく、目的意識及び相手意識をもちとした感想(ふり返り) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分にとっての「自立貢献」とは学期ごと、月ごと、行事ごとに、授業ごとに児童に振り返らせる。1コマの授業の振り返りの時間を大切にしたい。 自立貢献＝奉動の語も定期的に行う。 対話的な学びの実現のため、要は言葉の獲得及び対話の機会を繰り返しながら増やしていくことが必要である。 「楽しかった。」「うれしかった。」「いろいろな情動的な自己評価から、「○○をとおして、□□のことが分かった。」「○○を使ったら、□□できた。」というような自分の成長を感じられる自己評価への移行が段階的に必要である。さらには、「今後、△△していきたい。」「いろいろな次の成長に発展させるような自己評価が望まれる。また、そのような自己評価になる学習指導課程の計画が必要である。 様々な生活場面で、その目的を明確にし、いろいろな人・ものとの出会いを意図的に繰り返す仕組みづくりが必要である。その中で、自分の存在や所属感、有用感などの自己肯定感を高めるようにすることが必要である。そのため、体験的な活動はどれも効果的な活動である。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室では、自分の意見もはっきり言えてしっかりと行っていると思います。 特に6年生より下級生の手本となる行動ができています。 もったいぶももってほしい。 学年が上がるとともに、しっかりとできてきたように感じます。 地域の方たちにもっと積極的に挨拶ができ、子ども達が元気をももらっています。
			・自分で考えたことを表現し、対話する児童への転換 ・進んで基本形「水スタンプ」の実践 ・満足・達成感を感じる児童の工夫	自分の考え表現し、分かりやすく伝えることができる。	3.0	3.2	2.8	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことにより自信をもつことができていると感じる児童が多い。この積み重ねが自己有用感や自己存在感につながっていると感じる。 いろいろな場面で適切な言葉で自分の考えを表現する姿が見られた。場数をこなした、様々な経験の成果だと思ふ。 少人数のために、発表や代表になる機会が多い。また、上級生の様子を見て学ぶことも多く、自分の気持ちや考えの伝え方は学んでいる。 自己表現力について、児童のポイントが-0.5。 学習習慣が身に付いていると感じる児童が多いが、保護者や教師はあまり身に付いていないと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師より児童の学習意欲を高め、「できた!」「もってやってみよう」と感じる学習を展開する。 家庭学習の課題時間を再度設定し、保護者と学校が一体となって家庭学習に参与する取り組みを行う。 放課後子ども教室サポーターから放課後子ども教室の様子などを聞き、連携して指導を行う。 対話や話し合い活動、発表や仕方の等、児童が自分の考えを自分の言葉で表現する活動を積極的に設ける。 校内研究をより活かし、対話中心の学習活動を単元計画の中に位置付け、意識して指導を行う。 読書月間の取組を広く、日頃から「おすすめの本」を教師が児童に、児童同士ができるようにしていく。 授業内・外、学年・学級等々をきかせなければならない機会が必要。(各学年に応じて) 話し合い活動など、自分の考えを表現する力を向上させる機会や手立てが必要。地域の人や外部人材を活用しながら、できるだけ多くの人とふれあい、多様な考えに触れさせていく。 	○
徳	豊かな心の育成	・地域人材を活用を含めた体験活動重視の教育 ・いじめの未然防止と解決力の育成(生徒指導の三機能を活かす) ・読書教育及び情報教育の充実	「地域人材の活用を含めた体験活動重視の教育」	3.7	3.5	3.7	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 地域の素材に目を向けた体験活動を、積極的に学習へ取り入れることで、地域を愛する児童がさらに育っている。祭りや自然の事物や地形を生かした見学や体験活動は有意義で地元愛を深めた。 小規模校の特色を生かして、複式、または全校で学習やその他の活動を行うことが、児童同士の思いやりを育てていくと感じる。 読書環境は整っている。外遊びやゲーム等で時間を費やし、読書時間、読書習慣においては児童によって数値の開きがある。放課後にも読書に取り組む。 地域の行事に参加する活動を通して、自分に何ができるかを考え参考させていくと継承に少しもつなげていくのではないかと考える。 読書への意欲は個人差が大きい。学校では本を手にしても、家庭ではメディアに接する時間が多く、読書時間は少ないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師も地域の素材(自然・人・歴史など)に進んで関わり、地域を知り児童ととも学びながら総合的な学習の時間を充実させる。 さらには少人数になるため、もつと子どもたちどうし地域に関わっていくか、子どもたちができることを学級活動、道徳等でも考えさせていく。 地域のボランティア活動に参加できる場を、教育課程の中に位置付ける。 地域の活動(清掃・遊園地・祭り等)に、もつと参加できるよう保護者にも協力を求める。 学校教育の中では、表裏も認められるべきである。(その場で保護者、みんなの前で認める) 隙隙の時間に読書をするという習慣を確立する。(テストが終わった後、雨の日、朝の作業や活動が終わった後など) 少人数だが、それぞれに支援を必要とする児童がいる。今後も児童の様子を日々共有し、全職員で見守る組織づくりが大切。 読書月間や習慣だけでなく、図書館に教師も出向き読み聞かせをしたり、本の紹介を積極的に行えるようにする。放課後の読書も「読書の日」を入れる 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 言葉がわからないなど、読書をしていない、と感じる時があります。 やさしさはピカイチ、上級生が下級生に勉強を教えたり、面倒を見られる場面をよく見かけます。 日常(家庭)体験が少なくなっている現状がある一方で、たたくの体験活動を取り入れて頂き、よい経験になっていると思います。 個人差はありますが、本の好きが育つてくると図書館やふくろう号はありがたいと思います。
			・体教科の授業改善 ・全校遊びを通しての体力向上 ・生活リズム改善指導 ・ネット・ゲームに関する指導	自分であてをたて、自分の学習をふり返ることができる。	3.4	2.6	3.0	2.9	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上の評価は昨年に引き続き高い。 体育科学習では、個人やグループごとの課題をもとに「めあて」を設定し、振り返りの時間を大事にしてきた。そのため、児童の評価が高くなっている。 個人の目標数値を設定させ、その向上をはかる手立てについて年間を通じて行い体力が向上した。 前年度よりは児童の評価が低くなっている傾向にある。生活リズムは前年度同様、低い。 保護者も児童も実感が伴っている。しかし、体力テストの結果は決して高いとはいえない。 インターネット利用については、加速度的に児童の技術が向上している。倫理・道徳的価値観をいかに高めるかが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を受け、2学期、3学期にも各自の課題に応じた目標を児童が設定する機会を設ける。 また、教師の継続的な評価が必要である。 隙隙時間で継続してできる運動(ラジオ体操やストレッチやちょっとした筋トレ)に取り組む。 生活リズムについては、特に早寝早起きの定着が必要である。学校での指導だけでなく、生活リズムチェック表などを用い、生活リズムチェック週間などを設け、家庭での見届けを行ってもらう。 児童のインターネット利用状況や技術について、教師も学ぶ機会が必要。また、児童がどのような利用をしているか、楽しさを共有することも大事ではないだろうか。 	○
地域連携	地域との連携	・コミュニティ・スクールの推進 ・情報発信と共有	地域のひとと一緒に学習する児童が成長できている。	4.0	3.3	3.3	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 地域との体験活動については、評価が非常に高い。地域を活用した学習を生活・総合的な学習の時間の年間指導計画に組み込み、各教科と関連させながら学習を進めていることの結果である。 今年度、新しく学校として地域への行事に参加できた。 全体的にコミュニティ・スクールへの認知度・理解度が上がっている。コロナ禍が終わり、行事や地域の活動の制限が解除されてきていることが理由だと考えられる。 少しずつではあるが、HPの活用が家庭・地域へ伝わりつつある。 地域や放課後子ども教室と保護者、教職員のつながりがまだ薄い。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、できるだけ学校に地域の呼びひながらコミュニティ・スクールについて、丁寧に説明していく。 年度当初の学校運営協議会、ふれあいネットワーク会議で学校経営方針をもとにした、本校ならではの総合的な学習の時間の学習の進め方や、年間計画についての説明・協議を行う。 情報をより正確に伝えるために、HPやメールシステムを更に活用する。地域の方へ区長さんからまちコミメールに参加していただけるよう協力をお願いする。また、家庭で日々の学校の様子を話題にしてもらえるようにする。 祭りや行事で、地域や家庭と接する機会を工夫していく。ただ行事に参加するのではなく、学習の一環として取り組めるように総合的な学習の時間のマネジメントをしていく。 地域や放課後子ども教室と保護者、教職員のつながりを深める企画運営を地域コーディネーターとともに考え実践していく。 運動場整備はかなりの労働である。草率めなど、児童もできることがあれば協力していく。 今後も集金が滞ることがないよう協力を呼び掛けしていく。 ペーパーレスについては過渡期であり、少しずつ浸透している。HPやまちコミメール等を活用しながら適宜活用していく。 事務的な負担をみんなでカバーできる体制作りが必要。 泰雄先生に花や植物の手入れを任せきりにしている。より児童に関わらせる手立てが必要。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 年度も神楽体験は学校全体で取り組みたい。年度末土曜日、数名地区の実施。 地域へ祭りや行事等へ保護者も気軽に、積極的に参加してほしい。そこから地域のことや、コミュニティ・スクールについて保護者も理解や認知が高まっていくと思われる。 名水の自然環境を生かしたシーヤックや、釣り、海水浴なども児童に経験させてあげたい。いろいろな組織がある中で、調べて活用していきたい。 アサリがとれなくなった。いづれがなくなるとなると名水地区の自然環境も少しずつ変化している。 今年度は地域学習が多く、地域愛が育まれていると思います。 地域のまち学校に関心をもちてくれるといいですね。 地域の人や場所、物、行事等を積極的に活用してほしいと思います。 HPも毎日更新されていて、楽しく拝見しています。 子どもたちの声(感想)を直接地域へ発信していくのもよいかなと思います。
			・組織マネジメントの実践 ・緑化教育	学校施設を安心・安全に利用ができている。	3.8	3.5	3.8	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 技術員の日々のはたらきで非常に環境が整っている。安心・安全な学校環境となった。 安心・安全な学校、会計関係については、ほぼパーフェクトな評価。正確で迅速・確実な対応で保護者からの信頼度が高い。 花いっぱい自慢の学校であるが、全員が誇りに思っている。今後も無理なく児童や職員で継続できるとよい。 1人1人の花壇があることが、児童の意欲や満足感につながっている。 ペーパーレス推進についてはまだ抵抗感の残る場合もある。 単公金(給食費など保護者より負担していただくお金)に関しては一律の疑問もあってはならないと思われるため、年度当初の総会等を利用し周知させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動場整備はかなりの労働である。草率めなど、児童もできることがあれば協力していく。 今後も集金が滞ることがないよう協力を呼び掛けしていく。 ペーパーレスについては過渡期であり、少しずつ浸透している。HPやまちコミメール等を活用しながら適宜活用していく。 事務的な負担をみんなでカバーできる体制作りが必要。 泰雄先生に花や植物の手入れを任せきりにしている。より児童に関わらせる手立てが必要。 	◎